

進路指導室へようこそ2

前橋女子高校進路指導部

令和6年度 MJ 進路通信 第24号

令和6年9月6日（金）発行

■学習時間調査実施中です

今週から本格的に授業が始まっています。今週の生活目標は、夏休みの生活からのリズムの切り替えです。起床、就寝時間を学校モードにすることはもちろんですが、朝 8:50 から 15:45 までの間、学習に集中できるようにするために逆算して1日の過ごし方を考える必要があります。今週から学習時間調査を行っていますが、この調査を1日の生活を振り返るための目安にし、しっかり軌道修正を行っていきましょう。右の表は学年ごとの過年度推移です。先輩方の努力量を目標にすると同時に先輩方もなかなか克服できずにいた課題（スマホ等）もあります。1年間で最も長い2学期を、中身の濃いものにするためには、まずはスタートをうまくきることが大切。一人ひとりテーマをもって学習に取り組みしましょう。

1年9月の年度比較（先輩との比較）										
	平日	土曜	日曜	国語	数学	英語	歴公	理科	備考	スマホ等
今年度	2.5	4.2	3.1	2.3	9.3	6.7	0.8	0.9		76
昨年度	2.6	4.0	4.4	2.4	8.3	8.1	1.2	1.4	SSL	70
2コ上	3.1	4.8	5.0	4.2	10.0	8.8	0.9	1.2	分散登校	65

2年9月の年度比較（先輩との比較）										
	平日	土曜	日曜	国語	数学	英語	歴公	理科	備考	スマホ等
今年度	2.9	4.2	3.9	3.0	8.4	7.5	1.3	2.4		62
昨年度	2.6	3.5	4.0	2.4	8.5	7.1	0.4	2.1		60
2コ上	3.1	5.4	5.6	3.6	9.9	8.9	3.1	1.2		51

3年9月の年度比較（先輩との比較）										
	平日	土曜	日曜	国語	数学	英語	歴公	理科	備考	スマホ等
今年度	4.7	3.3	7.2	3.3	8.3	8.1	5.6	8.9	模試	39
昨年度	4.1	3.4	7.6	3.2	7.9	7.4	5.4	7.3	模試	46
2コ上	4.9	4.2	9.0	4.9	8.5	9.2	6.2	8.8	模試	37

■ある高校3年生（女子）の人生相談から

（概要）高3女子。元々は別の大学を目指していましたが、高2の冬にその大学を訪れ、入りたいと思う大学ができました。何かを頑張ったことがなかった私は、受験は自分が変わるチャンスだと思い、日々勉強しました。

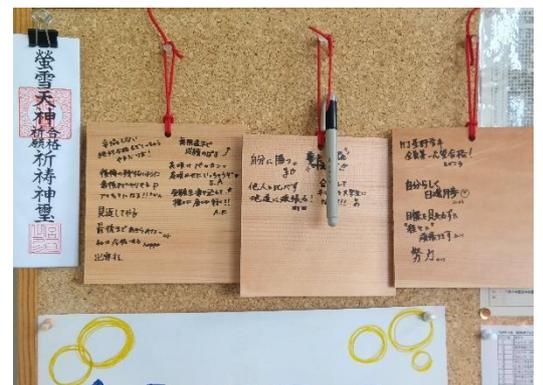
家族が推薦入試を勧めてきたのは昨夏のこと。私にそんな選択肢はなく、しつこく言ってくる母に怒ったこともあります。しかし、推薦入試の願書締切の前夜、勉強していたら不安になってしまったのです。「ああ、もう推薦にしよう」と決め、泣きながら母を起こして願書を書きあげました。

面接のみで合格し、あとは入学するだけですが、初めて感じた努力の楽しさや、自分が変われている実感を感じることが辛いです。困難や不安から逃げた私の選択は間違いだったのでしょうか。（静岡・M子）

3年生の2学期は志望校をより具体的に絞り込む時期です。一方、度々返却される模試の結果を見ながら、より現実的な選択を迫られ、志望校決定に迷いや不安を大きく感じる時期でもあります。M子さんもそんな不安に心を乱された生徒の一人かもしれません。指定校推薦を含む推薦入試は、その大学を第一志望とする生徒にとっては、合格の可能性を増やす大きなチャンスです。推薦入試の多くは高校3年間の学習状況が評価されますので、推薦の基準をクリアしたということは前女での3年間の努力の証でもあります。ですから、その努力の証をもって推薦入試にチャレンジするという事は決して逃げでも、うしろめたさを感じるものではないと思います。ただし、推薦入試はあくまで「その大学を第一志望とする」生徒が活用するものであって、苦しい受験から逃げるための妥協の結果の選択という思いが少しでも入っていると、M子さんのような新たな辛さを生み出すこともあります。

受験期が本格的になると、周りの人の動きや成績に敏感になりがちです。自分の強みを活かせる受験方式がどんなものなのかは人それぞれ。推薦入試を使う友人の姿を見て不安になる必要も全くありません。不安になったときに、一度原点に立ち返って、「自分は何を学びたいのか」を常に心にとどめて過ごしてほしいと思います。

（写真は3年学習会で参加者に書いてもらった絵馬です。「蛍雪時代」でお馴染みの旺文社の近くにある赤城神社の敷地内に「蛍雪天神」が祭られており、そこで調達した絵馬です。進路室前に奉納してありますので願掛けしたい人は自由に書いてください）



■「大学入試を知る」(第5回：アドミッション・ポリシー (AP) って?)

アドミッション・ポリシー (AP) とは、各大学が定める「入学者の受入方針」のこと。簡単にいえば「大学が求める学生像」です。AP は大学全体や学部・学科ごとに設けられていて、入学前に大学や学部がどんな学生を求めているのかを知るためのひとつの指標になります。AP には、大学の個性や特色、ビジョンが反映されています。建学の精神や教育理念、教育目標、学長メッセージなどに関連していることが多いです。当然入試問題 (面接含め) もこのポリシーに基づいて作成されるわけですから、志望校への準備を始める際にまず知っておかなければならないのは AP であるといえます。参考までに、いくつかの大学の AP (抜粋) を紹介します。

東京大学

東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題に関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

東北大学

東北大学では、上記 (略) に掲げた理念のもとに、学士課程を通じて

- ① 専門分野に関する知識及び学問全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有し、
- ② 教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献でき、
- ③ グローバル社会において指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備える人

を育成します。

群馬大学 (医学部医学科)

- (1) 医師としての資質、特に医師としてふさわしい人格と倫理性、コミュニケーション能力、人間に対する豊かな感受性と奉仕の精神を備えている人
- (2) 医学部の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人
- (3) 医学研究、医学教育、医療行政、社会貢献活動を指向する人
- (4) 地域医療に貢献することへの志と強い信念を持っている人

■ところで、前女のAPって、知ってる？

ちなみに、AP というのは大学だけにあるものではありません。前女でも「こんな生徒に入学してほしい」「前女でこういうことを学んでほしい」「こんな生徒に育てほしい」という思いを全先生方が意見を出し合って、前女のスクールポリシーが作られています (群馬県の全ての公立高校で作成されています)。前女での高校生活を送るにあたり、前女としてのスクールポリシーを自覚し、そのうえで大学の AP にどうつなげていくのかを考えることも、受験を通じて皆さんに経験してほしいことの1つです。

グラデュエーション・ポリシー (卒業するまでにこのような力を身に付けられる学校です)

本校では生徒が卒業後に社会で「広い視野と見識を備えた、多様なリーダー」となるよう、以下の資質・能力の育成を目指します。

- ① 課題発見や課題解決へのアプローチに必要な、生きた知識の「獲得力」と「活用力」
- ② 多様な人々との対話を通じ、新たな価値を共に創り出していく「共創力」
- ③ Try & Learnの精神で、プロセスからの学びを次の挑戦への活力につなげる「心の推進力」

カリキュラム・ポリシー (このような学びの場を提供する学校です)

- ① 深い知識や思考力が獲得できると同時に、学問の本質や学ぶ楽しさを味わえる授業
- ② 生徒自らPDCAサイクルを回し、主体的・協働的・創造的に取り組む学校行事・部活動・SSH活動
- ③ 社会との交流や自己の発信力を試す機会としての講演会、校外研修、外部発表、コンテスト出場
- ④ 充実した学校生活や進路実現を図るための、個に応じた面談や添削指導等

アドミッション・ポリシー (このような皆さんを待っている学校です)

- ① 知的探究心をもち、本校の学習に積極的に取り組む意欲のある生徒 (賢く)
- ② 仲間と切磋琢磨しながら、ともに成長しようとする意思のある生徒 (明るく)
- ③ 自己と他者のどちらも尊重し、心身ともに健全な学校生活を送ろうと考える生徒 (強く)
- ④ 将来、社会や世界のリーダーとして活躍しようとする、高い志をもった生徒 (気高く)